

合戦[その3] 戦国時代

高山城下の戦い (小早川当主・16代繁平)

(小早川当主・16代繁平 在位年間:1543~1550)

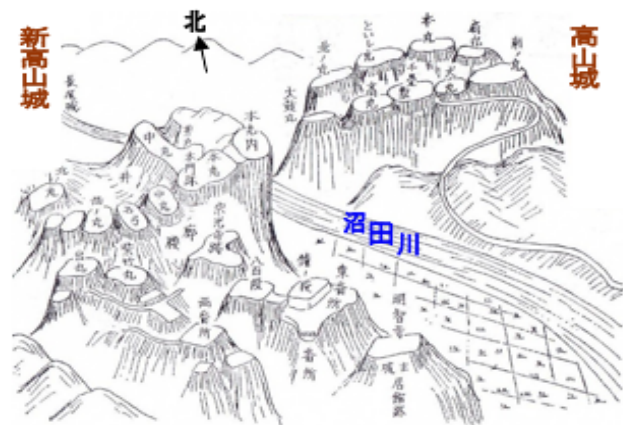
＊時代背景 ; 戦国時代の始め頃、安芸・備後の国には西から大内、北からは尼子の強力な勢力が侵入し、小早川氏はその去就に迷う有様であった。この様な情勢の中、今まで抗争を繰返していた竹原小早川氏との融和が図られ、小早川一族が回結して敵に当るようになっていた。

＊小早川一族と勇猛を誇る・尼子氏との戦い

天文13年(1544)出雲の国から尼子国久氏の大軍五千騎が高山城に攻めてきて、高坂の大陣山・小陣山に陣を構えて相対したが、小早川氏側は乃美・棕梨・梨羽・小泉氏等一族籠城して戦った。

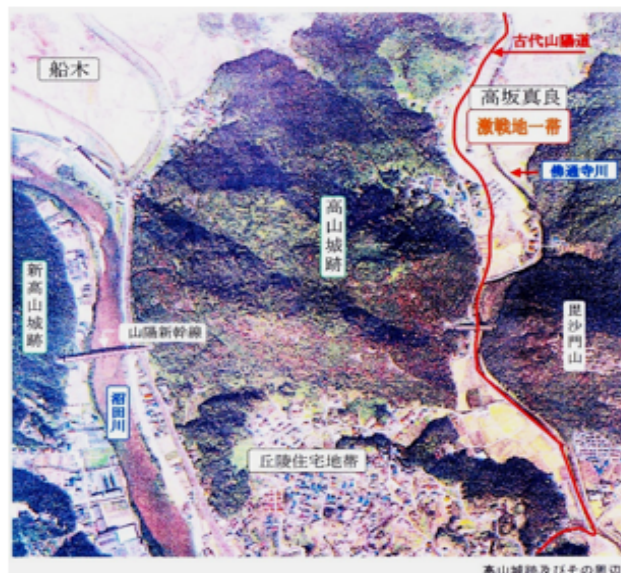
＊尼子軍は長期戦になれば毛利軍に退路を断たれることを恐れたのか一ヶ月足らずの戦いで、高野山(甲山の今高野山城、和智氏一族の居城)久代方面へ退却している。尚、この戦の十年後に尼子氏は滅亡している。

【川を挟み、花崗岩の絶壁がそびえる高山城・新高山城】



高山城は、4代当主茂平(在位・1244~1264)が築城。高山城は、標高190m。その規模は雄大宏壮で総面積は15万㎡である。高山城の立地条件は、東部から南部を通る山陽道・北西部から南部にかけて流れる沼田川の交点付近、すなわち水陸交通の要路に求められたといえる。高山は、山頂部から北東部山麓にかけて真良郷、南部に沼田郷・梨葉郷、西側には沼田川、北部から北西部に、舟木郷を眺望でき荘内を掌握する絶好の地であった。

高山城の裾野を通る古代山陽道と戦いの場の因果



いく度の戦において、高坂の真良が激戦地となっている。特に、勇猛を誇る尼子・新宮党の五千騎の南下は、古代山陽道が格好な交通路であり、真良の平坦部は戦い易い場だったと推測できる。

沼田小早川・歴代城主の法名と逝去年月日

歴代	当主名	法名	逝去年月日
初代	実平	通玄院仁山義公	建久2年(1191) 11月25日
2代	遠平	天祥院広山寛公	嘉禎3年(1237) 9月 5日
3代	景平	常誓院清山浄公	寛元2年(1244) 7月14日
4代	茂平	随応院本仏祖元	文永1年(1264) 2月15日
5代	雅平	流源院寛本浄公	永仁6年(1298) 7月18日
6代	朝平	円通院観嶺禅公	貞和3年(1347) 12月朔日
7代	宣平	随泉院円山照公	応安2年(1369) 12月16日
8代	直平	成就寺仏心本明	永和1年(1375) 2月19日
9代	春平	仏通寺天心宗順	応永9年(1402) 正月 7日
10代	則平	肯心院大言常建	永享5年(1433) 正月26日
11代	熙平	宝心院本源常立	文明4年(1472) 12月 3日
12代	敬平	長松院笑翁慧観	明応8年(1499) 4月17日
13代	扶平	正法院惟三常因	永正5年(1508) 正月14日
14代	興平	香積寺実厳宗兵	大永6年(1526) 12月26日
15代	正平	成就寺天秀祖祐	天文12年(1543) 5月 9日
16代	繁平	一珠院文室元緒	天正2年(1574) 11月13日
17代	隆景	黄梅院泰雲紹閑	慶長2年(1597) 6月12日

廿四人逆修の墓 ; 市指定重要文化財



＊由緒 逆修ということは出陣する武士が生前に菩提を弔っておくことで、その時の塔、すなわち石塔である。

陰刻名 干時天文二年 逆修廿四人 癸巳二月

墓の規模

＊高さ 0.45m

＊幅 0.35m

戦う武士達の覚悟の始末!

＊当時、天文2年(1533)は足利義治12代将軍の頃で、大内義隆の全盛時代で、今川義元、尼子晴久、毛利元就が勢力を拡充するために活動を始めた頃である。この24人は誰なのか、なぜ逆修したのか、いずこの戦場に行ったのか全く不明であるが、武士達の覚悟と忠誠心を感じ取ることができる。

① 雑兵達の戦場(南北朝時代)



② 大鎧を着用した武士達(戦国時代)

